



「高いものほど迫力ある音」はウソだった!? 高級VS安価、イヤホン選びの真相を暴く

コストパフォーマンスの高いイヤホンを選ぶ

市場が拡大、メーカーも増え選択肢が充実

最も身近な音楽再生機器でもあるスマホの普及で、ヘッドホン・イヤホンの市場が急拡大。数年前まで年間1500万本程度だった国内市場は、すでに2000万本近い規模

にまで成長している。特に「実勢価格1万円前後の商品の人気の急上昇している」(メーカー関係者)といい、海外メーカーの新規参入も相次いでいる。

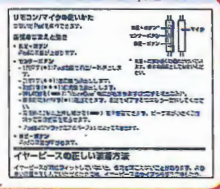


選び方① 「iPhone用」「スマホ用」に注意

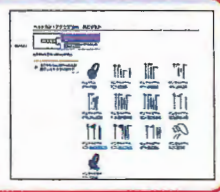
「iPhone用」「スマホ(アンドロイド用)」をうたうイヤホンは、ケーブルの途中にマイクと簡易リモコンを備える以外、通常のイヤホンと同じ。価格が高めなので、リモコン不要なら同じシリーズの通常モデルを選ぶ。



アップル指定のマイクとリモコン機能を備えた商品が「Made for iPhone」をうたえる(機能はメーカーを問わず同じ)。再生・停止・曲送り操作も可能



リモコンはあるが、音量調整は本体の音量と連動しない、昔ながらの回転式のものが多い。スマホとの相性の問題もあり、iPhone用より数が少ない



リモコンやマイクが不要なら通常モデルを選ぶ

選び方② スペックはあくまで参考程度

価格差の根拠として店頭に掲示されているスペックは、どれも参考程度にしかならないもの。例えば、再生可能な音の幅を示す「周波数帯域」の上限値は、人間の聞き取れる範囲を超えていることが多い。

■ソニー製品の場合の例

	再生可能な周波数帯域
上位モデル XBA-40	3 ~ 2万8000Hz
XBA-30	4 ~ 2万8000Hz
XBA-20	4 ~ 2万5000Hz
下位モデル XBA-10	5 ~ 2万5000Hz

人間の耳で聞き取れる高音はおよそ2万Hz(20kHz)まで。低音も20Hzを下回ると「うねり音」に近づき、音楽の収録現場で使われることはまれ。「再生可能」でも実際に聞くことはない

高級イヤホン、あえて買う価値はあるか?

「Made for iPod/iPhone/iPad」マークを付けて売れるのは、アップルの許諾を得た製品のみ。許諾にはアップル指定のマイクとリモコン機能が必要になる。ただ、実は違いはこれだけで、各社は通常の製品にリモコンを付け、型番を変えて売っているにすぎない。iPhone用のほうが価格は高い場合が多いので、リモコンなどが不要なら通常版を選ぶべきだ。「スマホ用」「アンドロイド用」をうたうイヤホンにも同じことがいえる。

人気の中心はiPhone用のイヤホン。「Made for iPod/iPhone/iPad」のマークが付いた商品がそれで、1万円台など「高めの製品でも反響が大きい」(メーカー関係者)。iPodを使っていたユーザーがiPhoneに移行している影響もあり、「iPhoneユーザーは音質に対する意識が高い印象がある」という。

家電量販店の1階、一番目立つ場所が、定番位置となつて久しいスマホ。その横で日に日に売り場面積を拡大しているのがヘッドホンとイヤホンだ。特に、市場全体の5割程度を占めるイヤホン(耳に入れて使う「インイヤ」タイプ)の伸びが急激で、米国メーカーを中心に新規参入も相次いでいる。人気が中心はiPhone用のイヤホン。